＜認知症対応型共同生活介護用＞

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|---|---|
| Ⅰ. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|---|---|
| 訪問調査日<br>調査実施の時間 | 平成 21 年 7 月 11 日<br>開始 10時 00 分 ～ 終了 14 時 50 分 |
| 訪問先事業所名<br>（都道府県） | グループホーム コスモやよい<br>（ 大分県 ） |
| 評価調査員の氏名 | 氏 名 井上清三<br>氏 名 清水小百合 |
| 事業所側対応者 | 職 名 管理者<br>氏 名 川野さとみ・ 狩生弘志<br>ヒアリングを行った職員数 （ 2 ）人 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 調査報告概要表

作成日　2009年7月17日

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | 4490500099 |
| 法人名 | 有限会社 ケアつかさ |
| 事業所名 | グループホーム コスモやよい |
| 所在地 | 大分県佐伯市弥生大字山梨828番地<br>（電 話）0972-46-3288 |

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 第三者評価機構 |
| 所在地 | 大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F |
| 訪問調査日 | 平成20年7月11日 |

## 【情報提供票より】（ 21年 6 月 20 日事業所記入）

### (1)組織概要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成 19 年 7 月 29 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 8 人，非常勤 4 人，常勤換算 人 | |

### (2)建物概要

| | |
|---|---|
| 建物構造 | 木 造り |
| | 1 階建ての 1 階 ～ 1 階部分 |

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 24,000 円 | | その他の経費（月額） | 3,000 円 |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | | |

### (4)利用者の概要（ 6 月 20 日現在）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | | 18 名 | 男性 6 名 | 女性 12 名 | |
| 要介護1 | | 7 名 | 要介護2 | 5 名 | |
| 要介護3 | | 3 名 | 要介護4 | 3 名 | |
| 要介護5 | | 名 | 要支援2 | 名 | |
| 年齢 | 平均 | 83.3 歳 | 最低 72 歳 | 最高 102 歳 | |

### (5)協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | からしま医院　あんな歯科医院 |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りには民家が点在し、畑も多く見られるのどかな環境の中に建てられている。利用者は、自分に合ったペースで職員の見守りの中で生活している。運営者、管理者、職員、家族、関係者がお互いに協力し合い、サービスの質の向上に努めている。一人ひとりに合った個別のケアが行われ、外出や散歩などといった利用者の希望に随時対応できる支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

| | |
|---|---|
| 重点項目① | **前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）**<br>前回の評価結果による改善は行われているが、十分な取り組みがなされてないように思われます。又サービスの質の向上に向けて、運営者、管理者、職員、時には運営会議等を活用しながら積極的に改善策に取組まれることを希望します。<br>**今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）**<br>自己評価により、取り組んでいかなければならないことが明確になり、今後の実施課題を把握することが出来ています。 |
| 重点項目② | **運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4**<br>運営会議は月2回行われ、事業者、利用者、家族関係者等で開催されています。報告や課題等が話し合われ、良い効果を上げている。より良いサービスの質の向上が期待をします。 |
| 重点項目③ | **家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）**<br>家族が面会に来た時等、利用者の暮らしぶりや状況を報告し、希望を聞いています。金銭や通院に関する事等、その都度家族への連絡確認を行っています。利用者、家族等が直接管理者、職員に申し上げにくいことが伝えられる環境・方法を創り出すことを期待します。 |
| 重点項目④ | **日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）**<br>地域の祭りに、駐車場を提供する等除々にではあるが交流を持ち始めています。気軽に地域・住民との交流が行っていけるよう、自治会への加入、地域への広報活動を広げていくよう期待します。 |

# 2. 調 査 報 告 書

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| **1．理念と共有** | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | いま何を利用者が求めているかなど、理念に基づき、日々の暮らしをサポートしています。また色々な事が生じた時は、理念に立ち返るなど、理念を大切にしながら、利用者の支援に取組まれています。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日の朝礼の中で、理念を復唱しながら職員間で共有しています。また、職員の採用時等においても理念を中心にした事業所の方針を説明するなど色々な場で、理念について話し合いがもたれています。 | ○ | 事業所の理念・方針等が地域の人にも伝える配慮を望みますと共に、職員全員が利用者はもとより家族にも理念に基づいた支援が日々できるよう、期待します。 |
| **2．地域との支えあい** | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の祭事ごとなどで、施設の一部を開放したり、利用者の方も祭りに参加するなど、地域との交流を図っています。 | ○ | 町内会・自治会への加入とともに、普段のくらしの中でも近所の人達が立ち寄り、遊びに来たりする間柄ができるよう期待します。 |
| **3．理念を実践するための制度の理解と活用** | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は、職員全員の意見を集約しながら取り組みを行っています。また外部評価の意義を職員全員で話し合い、改善策等についても運営者、管理者、職員等で積極的に取組まれています。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の中では、事業所の活動状況や地域との係わり合いなどに対する積極的な意見や助言を受けています。運営推進会議から出る意見を大切にしながら、その改善策も一緒に取組んでいます。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | グループホームについての連絡、介護や福祉サービスの情報の連携に努めています。 | ○ | 地域包括センターを中心に、関係する行政機関の窓口と積極的に連絡を取りながら、利用者・事業所のもつ悩み、要望を相談し理解して頂くと共に地域、行政との関係が一層スムーズになるような取り組みを期待します。 |
| 4．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者の心身状況や問題が起きた時は、電話等により迅速に対応、また面会時に日頃の生活の様子をくわしく報告されています。なお金銭の受入・支出も出納簿を作成し、毎月きちんと報告されています。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族と利用者の間に入りさりげなく意見を聞き、それを職員会議・ミーティング等で共有し、改善を計ると共に運営者に報告しています。 | ○ | 利用者、家族などが直接職員や事業所に申し上げにくい苦情、要望等を伝える方法を構築されることを希望します。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動は殆どなく、入居者と多く交わり事業所の全職員と馴染みの関係が上手く出来ています。各ユニットのコミニュケーションを常に計っているので違うユニットの担当者が接してもスムーズな受入が出来ています。 | | |
| 5．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の機会があれば、研修に参加できるような機会を創っています。職員会議を上手く使って感染予防等、保健所・市役所からの情報は共有しています。 | ○ | 一年間の研修計画を作り、外部・内部研修に運営者、全職員が積極的に参加できるような環境づくりを期待します。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同じ法人の職員との交流はありますが、他の事業所との交流はありません。 | ○ | 交流研修会を開催することで、職員の資質の向上、サービスの向上が期待できると思われます。交流研修会の取り組みを期待します。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応** | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 環境の変化で戸惑うことがないように、入居希望者の自宅へ伺ったり、入院先へ訪問して馴染みの関係を創り、他の入居者と良い関係が保たれるように、言葉かけや接し方に配慮がなされています。 | | |
| **2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援** | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者から、人との接し方、礼儀作法、或いは料理・編み物等の手助けや落ち込んだ時に励ましを受けるなど、人生の色々なことをたくさん経験した先輩として尊敬する様子が見受けられます。 | ○ | 一緒に生活する同じ仲間として、利用者の苦しみ、不安を受け止め、利用者と共に和やかに過せる環境づくりを期待します。 |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| **1．一人ひとりの把握** | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者のつぶやき、生活習慣から今まで拘わってきたことを感じ取ると共に一緒に生活する身近な者として本人の要望、やってみたいことが把握できてるように見受けられます。 | | |
| **2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し** | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は、利用者の意向、家族の要望が叶えられるように意見を聞き、また各部門の職員の考えを取りまとめ管理者を中心に作成されています。 | ○ | 利用者、家族、職員等の話し合う機会を多く創りながら、出来るだけ、本人に寄り添い困っている課題、不安解消に応じた個別支援に重視した介護計画を策定するよう期待します。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 利用者に変化が生じた場合、本人の希望や家族、関係者等の意見を取り入れながら、見直しが行われています。 | ○ | 利用者のニーズとサービス提供状況と照らし合わせながら、介護計画の作成をし、順次見直しや変更をしながら、柔軟な対応をしていくことに期待がもたれます。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 日常生活の中での利用者の意向に即した、外出、買い物等の支援をおこなっています。病院への通院、移送サービス等必要に応じた援助に取り組んでいます。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 病院へ行くことが、困難な利用者には月2回の往診が行われています。家族の変わりに、職員が病院へ同行する場合は、診察結果を家族へ報告し、職員間での共有がなされています。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期について、はっきりと決まっているのは小数であり、本人も家族も、ばくぜんとした内容としか、とらえていない場合が多く、状態に応じてその都度、関係者をまじえ、希望にそった援助に取り組んでいます。 | ○ | 本人や家族への意思確認を行い、医師や関係者を交えての意思確認書の作成、対応指針を定めていく取り組みを期待します。 |
| Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| １．その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| （1）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者の記録や個人情報等は、他者の目のふれる所には、置かず、決められた場所に保管されている。人生の先輩として学ぶことも多く、利用者の気持ちを尊重しながらの支援が行われています。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分のペースで自由に過ごしています。外出、買物などの希望に添った個別支援が行われています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 菜園でとれた野菜を使用したり、調理出来る所は、手伝ってもらっています。食べたい料理があれば、献立に取り入れたりと、柔軟な対応をしています。 | ○ | 食べることに集中して、静かになりがちな食卓を、職員が利用者に声かけを行い、会話がはずむ楽しい食事ができる支援を期待します。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は週に3回行われてますが、利用者の希望により予定日以外でも入浴出来るよう対応しています。入浴後は水分補給を行い、体調管理も行っています。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 菜園や料理など出来る部分は、手伝ってもらっています。逆に職員が教えられる時もあり、本人が楽しみながらの支援をしている。本人の希望により、ドライブ、外泊、買物等の個別支援を行っています。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 見晴らしの良いテラスでゆったり過ごしていただいたり、散歩に行きたい利用者には、職員が付き添って外出します。その都度利用者の状態に応じて、車イスや車での対応を行っています。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関はカギをかけず、自由に出入りできるようにしています。外出したい利用者には、無理に止めずに職員が声をかけ、見守りをしながら対応しています。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 施設と消防署による災害時の訓練として避難誘導や消火器の使用方法等の災害時の対応に取組まれています。 | ○ | 今後も避難訓練を定期的に行い、地域との連携をはかり、避難経路や災害時の対応マニュアル等の作成を行うことを期待します。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量など毎日記録しています。看護師が身体状況をチェックし、一人ひとりに合わせた食事の対応をしています。自力での摂取が難しい利用者には、職員が介助につきます。調理師が一週間の献立を計画しています。 | ○ | 調理士が栄養面においてバランスの良い食事を心がけていますが、献立を作成するにあたって専門的な栄養士による相談支援を期待します。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ロビー、居間などの共用空間には、写真を壁に飾り、誰でも見て楽しめるようにしています。手芸が好きな利用者の手作りした物などを置いて、楽しみながら落ち着ける環境作りを心がけています。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人、家族の意思を尊重しながら対応しています。備え付けのベッドと家具があり、服や布団以外の馴染みの物は少ないようにあります。 | ○ | 馴染みの物を居室に取り入れたり、好きな物を飾ったり等工夫しながら、家庭で過していたと同じような気持で、居心地よく過ごせる居室づくりを期待します。 |

# 自己評価票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|---|---|
| Ⅰ. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| Ⅴ. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

**○記入方法**

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

**○用語の説明**

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

**○評価シートの説明**

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|---|---|
| 事業所名 | グループホーム　コスモやよい |
| （ユニット名） | やさい棟 |
| 所在地（県・市町村名） | 大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地 |
| 記入者名（管理者） | 狩生　弘志 |
| 記入日 | 平成21年6月22日 |

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | |
| **1．理念と共有** | | | | |
| 1 | **○地域密着型サービスとしての理念**<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 入居者が地域の中でその人らしく暮らしていくためには何が大切か、どうすべきかを基本理念としている.理念は事務所と玄関に掲示して外来者の目に触れるようにしている | | |
| 2 | **○理念の共有と日々の取り組み**<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎朝朝礼時に基本理念を復唱して、実践できるように取り組んでいる。また、職員会議等折りに触れて理念の大切さを話している | ○ | 職員全員が理念に添った介護ができるように話し合い取り組んでいきたい |
| 3 | **○家族や地域への理念の浸透**<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 定期的にホーム便りを発行して入居者家族に送付している。また、ホーム内に掲示して訪問者がいつでも見られるようにしている | | |
| **提供** | | | | |
| 4 | **○隣近所とのつきあい**<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 普段の暮らしの中で近所の方とは挨拶や言葉かけをしている。ホームの横で畑仕事をされてる方に野菜の苗を頂いたり、育て方を教わったりすることもある。敷地内で近所の子供が遊ぶ姿もみられる | | |
| 5 | **○地域とのつきあい**<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の祭りがあり、駐車場を神楽の場所として使って頂いた。多くのひとでにぎわい、入居者の方も一緒に見学し楽しんだ | ○ | 地域の行事にできるだけ協力、参加して住民との交流の機会を増やしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 6 | **○事業所の力を活かした地域貢献**<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議で地区の代表者や民生委員の方の意見を聞いたり話し合ったりしている | ○ | 地域の行事に役立てることがあれば協力していきたい |
| **3．理念を実践するための制度の理解と活用** | | | | |
| 7 | **○評価の意義の理解と活用**<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価や外部評価の意義を職員に知ってもらい、評価の結果を通して日々の介護の向上に努める | | |
| 8 | **○運営推進会議を活かした取り組み**<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議ではホームの活動状況や入居者の様子を説明している。出席者よりいろんな視点から意見を出してもらっている | ○ | 推進会議で出た意見を職員会議で職員に伝え、認識してもらうようにしている |
| 9 | **○市町村との連携**<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所は市の担当者とグループホームについての連絡の他、介護や福祉サービスの情報の連携に努めている | | |
| 10 | **○権利擁護に関する制度の理解と活用**<br>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度について十分に理解できていない | ○ | 勉強会にて知識を得て、必要性のある場合には関係者と支援していきたい |
| 11 | **○虐待の防止の徹底**<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法について十分理解できていない | ○ | 勉強会にて学ぶ機会を得て、職員それぞれが意識を持ち入居者に関わるように努める |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ４．理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得<br><br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に契約書を渡し説明している。入退院時の対応のことや利用料のこと等書類を見ながら説明して、署名、捺印していただく | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映<br><br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者は生活する中で管理者や職員に不満等を訴えてくる。その都度本人の思いを十分に聴くように努めている。職員会議やミーテイングで話し合い介護に反映できるようにしている | | |
| 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の面会時に日頃の生活の様子や健康状態等伝えるようにしている。心身の状態に変化があった場合にはその都度連絡している | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に家族と入居者の間に入り一緒に話す中で、さりげなく意見を聞くようにしている。職員会議やミーテイングで職員に伝え改善を図り、運営者に報告している | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映<br><br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議やミーテングの際に意見を出してもらっている。出た意見は運営者に報告して話し合っている | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 入居者がいつでも安全で安心して生活できるように職員の勤務態勢を整えている | | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員はユニット毎に配置して、入居者と多く関わりなじみの関係が保てるように努めている。また、別のユニットの職員が接することもあるのでスムーズに受け入れられるように普段より他のユニットの方とのコミュニケーションも大事にしている | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修があれば情報を提供して参加できるような機会を作っている。介護に関する著書等の回覧も行っている | ○ | 研修は自主的参加になるが、知識や資質の向上のために、勉強できる機会を作っていきたい |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流の機会は特にない | ○ | 他事業所との交流の機会があれば参加していきたい |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 運営者は事業所に立ち寄り、職員の声を聞くように努めている | | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 運営者は事業所に立ち寄り、入居者の様子や職員の勤務状況を把握している。また、職員が向上心を持って働けるように環境を整えるように努めている | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援<br>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居の相談においては本人や家族とよく話し合っている。入所中の施設や、自宅、入院先に出向いて面接の機会を持ち、初期の関係を大切にしている | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所前に施設に見学に来て頂き、家族の不安や意向をできるだけ多く話してもらい傾聴するように努めている。意思疎通のできにくい利用者もいるので家族との面接の時間は大事にしている。 | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援<br><br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所に関わる相談に限られているため、他のサービスの利用は検討していない | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 環境の変化に戸惑うことを念頭において、ホームでの雰囲気や生活に慣れてもらうために職員が言葉かけや接し方に配慮して安心できるように努めている。また、他の入居者とも関われるような場を作ったりして雰囲気作りをしている | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者を介護される立場のみ置かず、人生の先駆者として尊敬し、謙虚な態度で接し、学ぶ姿勢で関わっている。入居者から生活の知恵や知識など教えてもらうことも多い。 | ○ | 職員全員が入居者と一緒に楽しく、和やかに過ごせるような意識を持ち関われるようになりたい |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時に入居者との間に入り一緒に話をしたり、日頃の生活の様子を伝えたりしながら過ごすことで家族との関係を築けるように努めている。 | ○ | 入居者を通じて家族とのコミュニケーションや信頼関係を築いていきたい |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族には入居者への面会をしていただけるように勧めている。入居者の方は家族に会うと職員には見せないようないい表情をされてうれしそうである。家族の希望で外泊や外出される人もいて、その結果ホームで落ち着いた生活が送れている | ○ | 入居者と家族がいい関係が保たれるように間に入り支援していきたい |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 受診時に入居者の認知症状について主治医に伝えて、助言や治療を受けることができるように努めている | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 職員が入居者同士の人間関係を把握して、皆が仲良く暮らせるように言葉かけや対応に配慮している。世話好きの入居者もいたり、お互いを思いやる姿もみられる | ○ | 入居者同士が関わり合い、支え合い暮らしていけるよう、職員が関わっていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 入居者が他の施設へ移られた時には職員が面会に行ったりしている | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | |
| **1．一人ひとりの把握** | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人が困っていることや、どのような暮らしがしたいのか、話をしたり関わる中から把握するように努めている | ○ | 一人一人の思いが把握できるようになるだけ多く関わる時間を作っていきたい |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の暮らし、生活歴等は本人や家族に聞いている。一度では把握できないので、入居後に関わる中で話をしたり家族から聞いたりして把握できるようにする | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握<br><br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 日頃の生活動作を見守る中で、入居者一人一人の身体状況や認知症状、生活リズム、できることとできないことなどを把握するように努めている | ○ | 心身状態は日々変化していくので、先入観にとらわれずにしっかりと見据え、介護に反映していきたい |
| **2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し** | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 本人がよりよく暮らせるために　家族の面会時や本人と接する時にどうしてもらいたいか、どうしたいかを聞いたり、職員間で話し合ったりして介護計画をつくるようにしている | ○ | 家族や本人と話す機会を多く持ち、思いを聴き取り、利用者本位の介護計画を作っていきたい |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間が終了する前に状態が変化した場合には検討見直しを行う。 | ○ | 本人の状況に応じた介護計画の見直しをしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々のケース記録に生活の様子や気づきを記録して、情報を共有している | ○ | 職員が記録の必要性、重要性を認識して記録できるようにする |
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の希望を聞いて、できる限りの支援をしていけるように努めている | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域の公民館の祭りの案内があり見学に行った。また、夏休みにボランテイア体験を受け付けており、中学生が2名参加してくれた | ○ | 入居者が安全に安心して暮らしていくために運営推進会議や勉強会の参加等通じて地域資源の協力を働きかけて行く。 |
| 41 | ○他のサービスの活用支援<br><br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 敬老会には業者が入居者の眼鏡の無料点検をしてくれた。 | ○ | 地域にあるさまざまなサービスを知り、活用していきたい |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してさまざまな情報の交換を行っている。また、困難事例等相談することもある | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族や本人が希望するかかりつけ医で受診をするようにしている。状態からホームに往診をしてもらっている入居者もいる。受診時には職員が同行して主治医との連携に努めている | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援<br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 受診時に入居者の認知症状について主治医に伝えて、助言や治療を受けることができるように努めている | ○ | 入居者が落ち着いてホームでの生活が送れるために主治医との連携に努めたい |
| 45 | ○看護職との協働<br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 看護職員を配置しており、入居者の健康管理を行っている。また、医療面についての相談や助言、知識の伝達など常時行えるように体制を整えている | ○ | 入居者の健康を守るために、看護職員と介護職員が協力していきたい |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院時には本人の介護添書を医療機関に提供している。また、入院先に見舞いに行き、状態を確認して、病院内の地域医療連携室等と連絡を取り合いながら状況把握、早期退院への調整を行っている | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 病気の状態についてはその都度主治医や家族と話をして情報を共有している。重度化や終末期に向けての方針が共有できているのは一部の入居者のみである | ○ | 重度化や終末期での方針の共有が入居者全員についてできるようにしていきたい |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人や家族の意向を考慮して、重度化や終末期をどのように過ごすことができるのか主治医や家族と話したことを職員間で共有できるようにしている | ○ | 重度化や終末期にどのように関わっていくか事業所全体で検討していく必要がある |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 別の施設に移り住む場合、関係者に本人の情報を多く伝えたり、面接に来て頂いて、本人が不安なく移り、安心して過ごせるように配慮を行っている | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | |
| **1．その人らしい暮らしの支援** | | | | |
| **（1）一人ひとりの尊重** | | | | |
| 50 | **○プライバシーの確保の徹底**<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉かけに対しては入居者を尊重するような言葉かけをするように心がけている。また、職員会議やミーティングなどでも個々の対応について話し合い、確認するようにしている | ○ | 職員が意識して入居者に対する言葉かけや接し方、個人情報の取り扱いについて気をつけるようにしていく |
| 51 | **○利用者の希望の表出や自己決定の支援**<br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 何事に対しても職員の押しつけにならず、入居者に聞いて決めてもらったり、意見を聞いて納得してもらえるように心がけている | | |
| 52 | **○日々のその人らしい暮らし**<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や気分、その人の生活リズムに合わせて無理のない対応をしている | | |
| **（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援** | | | | |
| 53 | **○身だしなみやおしゃれの支援**<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている | 本人や家族の意向を聞いている。本人のなじみの理美容院に家族が連れて行ったり、そうでない人は、職員が本人と相談しながら散髪している。服装や身だしなみについても本人と職員が一緒に考えて決めるように配慮している | | |
| 54 | **○食事を楽しむことのできる支援**<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員が献立を決めている。菜園で利用者と一緒に作った野菜を使ったりする。野菜の皮むき等下ごしらえを手伝ってくれたり、職員と一緒に準備や後片付けをしてくれている。職員は弁当を持ち、入居者の様子を見守りながら食事をしている | ○ | 食べる楽しみを感じることができるよう、入居者と一緒に献立を考えたり、作ったりできる機会を増やしていきたい |
| 55 | **○本人の嗜好の支援**<br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒やたばこを飲む機会は作っていない。本人の希望で朝食をパン食にしている人もいる | ○ | 入居者の好みを聞いておやつや飲み物等、嗜好品を楽しめるようにしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 56 | ○気持よい排泄の支援<br><br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チエック表や尿意のサインを見て、声かけやトイレ誘導を行いなるべく失禁しないようにしている。失敗したときはさりげなく片付けて介助している。夜間のみポータブルトイレを使っている人もいる | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週に3回、ユニット毎に午後入浴している。入浴拒否がある人にはチームプレイでうまく入れるように声かけを工夫したり、曜日や時間にとらわれず入浴の機会を作っている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援<br><br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 睡眠リズムや体調を様子みて居室や居間のソファーで休んでもらっている | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 季節毎の行事を取り入れて職員と入居者が一緒に和やかに過ごしている。洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付け、調理の下ごしらえ、掃除などを手伝ってくれるので感謝の言葉かけをしている。菜園があり、一緒に畑仕事をしたり、毎日畑や花に水やりをしてくれる入居者もいる。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者がお金を持つ大切さは理解している。外出時に一緒に買い物に行き、自分でお金を払う機会を作っている。きちんと金銭管理のできる入居者は少なく、所持金は預かっている | ○ | 個別に買い物をした時などにお金を支払えるような機会をつくりたい |
| 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 体調や気分を考慮して、散歩やドライブ、買い物などに多く出かけるようにしている。皆外出は好きである。少人数ずつ車椅子利用の方も含めてなるべく多くの入居者が出かける機会を作っている | ○ | 外出する入居者が固定化しないようにして、一人一人が外出を楽しめるように取り組んでいきたい |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 不穏状態になりやすい入居者に対しては本人の思いを聴き、個別に出かけたりしている | ○ | 入居者全員、個別に行きたいところや馴染みの場所への外出支援ができるようにしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 63 | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の訴えがあるときは電話を取り次いだり、手紙を出す準備を手伝ったりしている | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 訪問時には居室や居間のソファー、テラスで一緒に過ごしてもらっている。職員も交えて日頃の様子などを伝え一緒に話をしたりもする。面会時間は設けておらず、仕事帰りに会いに来られる方もいる | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 入居者の安全に配慮しながら、身体拘束はしないという姿勢で日々の介護に取り組んでいる | ○ | 身体拘束に関する勉強会をして職員すべてが認識していくようにする |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関に鍵をかけずに自由に出入りできるようにしている。不穏時に外に出ていこうとする入居者がいるが、職員が様子を察知して言葉をかけたり、一緒について行ったりしている | | |
| 67 | ○利用者の安全確認<br><br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 日中はホールに職員がいて様子を見守り、記録もホールで行う。夜間は時間毎に見回りをして安全確認をしている | ○ | 夕方、帰宅願望で徘徊の強くなる入居者もいるので所在の確認をしている |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理<br><br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 入居者の安全に配慮しながら保管、管理している | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み<br><br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故に関してはヒヤリハットや個々のケース記録にて報告する。ミーテイングで情報を共有して事故防止について検討している | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え<br><br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 応急手当や救急の訓練は行えていない。看護職員に教えてもらったりしている | ○ | 勉強会や実施訓練等で急変や事故発生時の対応を職員全員ができるようにする |
| 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災設備の点検は定期的に行えている。開設以来最初の防災訓練を平成20年11月に実施した。消防署の協力を得て避難誘導、消化器の使い方の訓練をした | ○ | 定期的に防災訓練を行うことで災害対策についての意識をもつようにする |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br><br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている | 転倒など入居者の起こりうるリスクを面会時に家族に話している。また、、リスクを防ぐために介護をする中で気をつけていることも伝えるようにしている | | |
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応<br><br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝バイタルチエックを行い日頃の状態を把握している。様子を観察しながら体調の異変がみられる場合には早期に受診を行っている。ケースについての記録を残している | ○ | 職員全員が入居者の体調の変化を見落とさないように注意する |
| 74 | ○服薬支援<br><br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者のフアイルに個々の薬の説明書を保管しており、職員が把握できる。服用時には本人に手渡し、あるいは介助して飲んだことを確認している | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応<br><br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 便秘にならないよう、食物繊維や野菜を多く摂るように献立を工夫している。十分な水分摂取にも努めている。また、排便表をつくり、状況を把握して看護職員の指示のもと対応している | ○ | 看護職員が中心となり、便秘予防に努めていく |
| 76 | ○口腔内の清潔保持<br><br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後声かけして口腔ケアを行っている。一人で十分できない場合には手伝っている。義歯もその都度外して洗い、就寝時には水につけて保管している | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | チエックシートに毎食食べた量を記入し、水分記録表で1日の水分摂取量を把握している。定期的にお茶の時間を設けて飲水の習慣をつけるようにしている。 | ○ | 職員が水分摂取の必要性を認識して、個々の十分な摂取に取り組んでいく。水分を摂りたがらない人もいるので対応に工夫している |
| 78 | ○感染症予防<br><br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | 感染症マニュアルを作成している。消毒や対応の仕方についてのマニュアルを職員の目につくところに貼り、徹底するようにしている | ○ | 年間を通して感染症を予防するため、職員が意識を持ち取り組んでいく |
| 79 | ○食材の管理<br><br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 食中毒予防のため職員や入居者の手洗いを励行している。食材もその都度新鮮なものを購入する。台所の水回りや調理器具、冷蔵庫、カウンター等の整理整頓、清潔を心がけている | ○ | 年間を通して消毒法、手洗い等食中毒予防に取り組んでいる |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br><br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 建物は木造作りの平屋で安定感がある。周囲には芝生が植えてあり、玄関前にはベンチやプランターを置いている。明るい雰囲気になるよう玄関には花を生けたりしている | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間は食堂を兼ねていて、日中はここで過ごすことが多い。季節毎の花を飾ったり、壁に飾り付けをしたり、写真を貼ったり、職員と入居者が一緒に行っている | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーや椅子など置いてあり、入居者がそれぞれ自由に使ってくつろいでいる。テラスで過ごす時もある | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室にはベッドと整理たんすを設置している。布団類は全員持ち込みである。馴染みのものを持ってくる人は少ないが、目覚まし時計や壁時計、小物入れ、座椅子など使っている人もいる。ホームで撮った写真や手作りの小物も飾っている | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮<br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 職員が入居者に配慮しながらこまめに温度調節を行っている。また、居室やトイレには換気扇があるので活用している。入居者が一人で空調を調整する場合には適切な温度であるか、職員が確認するようにしている | | |
| （2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内はバリアフリーで安全である。廊下やトイレ、浴室には手すりがあり活用している。また、各自の身体状況を考慮して車椅子や歩行器を使用してもらっている。また、歩行が不安定な人も多く、移動時には転倒しないように見守りを行っている | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり<br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 入居者が混乱しないように、職員が傍につき言葉かけを多くして安心感を与えている。また、持ち物や衣類には名前を記入して自分の所持品がわかるようにしている。居室のドアには野菜や果物の表札と名前の表札をつけて混乱しないようにしている | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用<br>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 天気のよい日にはテラスでおやつや昼食を食べたり、外の景色を眺めて楽しんでいる。建物の周囲には芝生や菜園があり、散歩したり、職員と入居者が一緒に野菜を作っている | | |

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目

| 項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|---|---|---|---|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている | | ①ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項　目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|---|---|---|---|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | ○ | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | ①大いに増えている |
| | | ○ | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、活き活きと働けている | | ①ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | ○ | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|---|---|
| Ⅰ．理念に基づく運営 | 22 |
| 1．理念の共有 | 3 |
| 2．地域との支えあい | 3 |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4．理念を実践するための体制 | 7 |
| 5．人材の育成と支援 | 4 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1．一人ひとりの把握 | 3 |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3．多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1．その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| Ⅴ．サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

**○記入方法**

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

**○用語の説明**

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

**○評価シートの説明**

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|---|---|
| 事業所名 | グループホーム　コスモやよい |
| （ユニット名） | フルーツ棟 |
| 所在地（県・市町村名） | 大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地 |
| 記入者名（管理者） | 川野　さとみ |
| 記入日 | 平成21年6月22日 |

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▭ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | |
| **1．理念と共有** | | | | |
| 1 | **○地域密着型サービスとしての理念**<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 入居者が地域の中でその人らしく暮らしていくためには何が大切か、どうすべきかを基本理念としている.理念は事務所と玄関に掲示して外来者の目に触れるようにしている | | |
| 2 | **○理念の共有と日々の取り組み**<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎朝朝礼時に基本理念を復唱して、実践できるように取り組んでいる。また、職員会議等折りに触れて理念の大切さを話している | ○ | 職員全員が理念に添った介護ができるように話し合い取り組んでいきたい |
| 3 | **○家族や地域への理念の浸透**<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 定期的にホーム便りを発行して入居者家族に送付している。また、ホーム内に掲示して訪問者がいつでも見られるようにしている | | |
| **提供** | | | | |
| 4 | **○隣近所とのつきあい**<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 普段の暮らしの中で近所の方とは挨拶や言葉かけをしている。ホームの横で畑仕事をされてる方に野菜の苗を頂いたり、育て方を教わったりすることもある。敷地内で近所の子供が遊ぶ姿もみられる | | |
| 5 | **○地域とのつきあい**<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の祭りがあり、駐車場を神楽の場所として使って頂いた。多くのひとでにぎわい、入居者の方も一緒に見学し楽しんだ | ○ | 地域の行事にできるだけ協力、参加して住民との交流の機会を増やしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 6 | **○事業所の力を活かした地域貢献**<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議で地区の代表者や民生委員の方の意見を聞いたり話し合ったりしている | ○ | 地域の行事に役立てることがあれば協力していきたい |
| **3．理念を実践するための制度の理解と活用** | | | | |
| 7 | **○評価の意義の理解と活用**<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価や外部評価の意義を職員に知ってもらい、評価の結果を通して日々の介護の向上に努める | | |
| 8 | **○運営推進会議を活かした取り組み**<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議ではホームの活動状況や入居者の様子を説明している。出席者よりいろんな視点から意見を出してもらっている | ○ | 推進会議で出た意見を職員会議で職員に伝え、認識してもらうようにしている |
| 9 | **○市町村との連携**<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所は市の担当者とグループホームについての連絡の他、介護や福祉サービスの情報の連携に努めている | | |
| 10 | **○権利擁護に関する制度の理解と活用**<br>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度について十分に理解できていない | ○ | 勉強会にて知識を得て、必要性のある場合には関係者と支援していきたい |
| 11 | **○虐待の防止の徹底**<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法について十分理解できていない | ○ | 勉強会にて学ぶ機会を得て、職員それぞれが意識を持ち入居者に関わるように努める |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ４．理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得<br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に契約書を渡し説明している。入退院時の対応のことや利用料のこと等書類を見ながら説明して、署名、捺印していただく | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映<br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者は生活する中で管理者や職員に不満等を訴えてくる。その都度本人の思いを十分に聴くように努めている。職員会議やミーテイングで話し合い介護に反映できるようにしている | | |
| 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の面会時に日頃の生活の様子や健康状態等伝えるようにしている。心身の状態に変化があった場合にはその都度連絡している | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に家族と入居者の間に入り一緒に話す中で、さりげなく意見を聞くようにしている。職員会議やミーテイングで職員に伝え改善を図り、運営者に報告している | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映<br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議やミーテングの際に意見を出してもらっている。出た意見は運営者に報告して話し合っている | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 入居者がいつでも安全で安心して生活できるように職員の勤務態勢を整えている | | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員はユニット毎に配置して、入居者と多く関わりなじみの関係が保てるように努めている。また、別のユニットの職員が接することもあるのでスムーズに受け入れられるように普段より他のユニットの方とのコミュニケーションも大事にしている | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ５．人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修があれば情報を提供して参加できるような機会を作っている。介護に関する著書等の回覧も行っている | ○ | 研修は自主的参加になるが、知識や資質の向上のために、勉強できる機会を作っていきたい |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流の機会は特にない | ○ | 他事業所との交流の機会があれば参加していきたい |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 運営者は事業所に立ち寄り、職員の声を聞くように努めている | | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 運営者は事業所に立ち寄り、入居者の様子や職員の勤務状況を把握している。また、職員が向上心を持って働けるように環境を整えるように努めている | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援<br>１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居の相談においては本人や家族とよく話し合っている。入所中の施設や、自宅、入院先に出向いて面接の機会を持ち、初期の関係を大切にしている | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所前に施設に見学に来て頂き、家族の不安や意向をできるだけ多く話してもらい傾聴するように努めている。意思疎通のできにくい利用者もいるので家族との面接の時間は大事にしている。 | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援<br><br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所に関わる相談に限られているため、他のサービスの利用は検討していない | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 環境の変化に戸惑うことを念頭において、ホームでの雰囲気や生活に慣れてもらうために職員が言葉かけや接し方に配慮して安心できるように努めている。また、他の入居者とも関われるような場を作ったりして雰囲気作りをしている | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者を介護される立場のみ置かず、人生の先駆者として尊敬し、謙虚な態度で接し、学ぶ姿勢で関わっている。入居者から生活の知恵や知識など教えてもらうことも多い。 | ○ | 職員全員が入居者と一緒に楽しく、和やかに過ごせるような意識を持ち関われるようになりたい |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時に入居者との間に入り一緒に話をしたり、日頃の生活の様子を伝えたりしながら過ごすことで家族との関係を築けるように努めている。 | ○ | 入居者を通じて家族とのコミュニケーションや信頼関係を築いていきたい |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族には入居者への面会をしていただけるように勧めている。入居者の方は家族に会うと職員には見せないようないい表情をされてうれしそうである。家族の希望で外泊や外出される人もいて、その結果ホームで落ち着いた生活が送れている | ○ | 入居者と家族がいい関係が保たれるように間に入り支援していきたい |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 受診時に入居者の認知症状について主治医に伝えて、助言や治療を受けることができるように努めている | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 職員が入居者同士の人間関係を把握して、皆が仲良く暮らせるように言葉かけや対応に配慮している。世話好きの入居者もいたり、お互いを思いやる姿もみられる | ○ | 入居者同士が関わり合い、支え合い暮らしていけるよう、職員が関わっていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 入居者が他の施設へ移られた時には職員が面会に行ったりしている | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | |
| **1．一人ひとりの把握** | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人が困っていることや、どのような暮らしがしたいのか、話をしたり関わる中から把握するように努めている | ○ | 一人一人の思いが把握できるようになるだけ多く関わる時間を作っていきたい |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の暮らし、生活歴等は本人や家族に聞いている。一度では把握できないので、入居後に関わる中で話をしたり家族から聞いたりして把握できるようにする | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握<br><br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 日頃の生活動作を見守る中で、入居者一人一人の身体状況や認知症状、生活リズム、できることとできないことなどを把握するように努めている | ○ | 心身状態は日々変化していくので、先入観にとらわれずにしっかりと見据え、介護に反映していきたい |
| **2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し** | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 本人がよりよく暮らせるために　家族の面会時や本人と接する時にどうしてもらいたいか、どうしたいかを聞いたり、職員間で話し合ったりして介護計画をつくるようにしている | ○ | 家族や本人と話す機会を多く持ち、思いを聴き取り、利用者本位の介護計画を作っていきたい |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間が終了する前に状態が変化した場合には検討見直しを行う。 | ○ | 本人の状況に応じた介護計画の見直しをしていきたい |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々のケース記録に生活の様子や気づきを記録して、情報を共有している | ○ | 職員が記録の必要性、重要性を認識して記録できるようにする |
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の希望を聞いて、できる限りの支援をしていけるように努めている | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域の公民館の祭りの案内があり見学に行った。また、夏休みにボランテイア体験を受け付けており、中学生が2名参加してくれた | ○ | 入居者が安全に安心して暮らしていくために運営推進会議や勉強会の参加等通じて地域資源の協力を働きかけて行く。 |
| 41 | ○他のサービスの活用支援<br><br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 敬老会には業者が入居者の眼鏡の無料点検をしてくれた。 | ○ | 地域にあるさまざまなサービスを知り、活用していきたい |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してさまざまな情報の交換を行っている。また、困難事例等相談することもある | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族や本人が希望するかかりつけ医で受診をするようにしている。状態からホームに往診をしてもらっている入居者もいる。受診時には職員が同行して主治医との連携に努めている | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 44 | **○認知症の専門医等の受診支援**<br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 受診時に入居者の認知症状について主治医に伝えて、助言や治療を受けることができるように努めている | ○ | 入居者が落ち着いてホームでの生活が送れるために主治医との連携に努めたい |
| 45 | **○看護職との協働**<br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 看護職員を配置しており、入居者の健康管理を行っている。また、医療面についての相談や助言、知識の伝達など常時行えるように体制を整えている | ○ | 入居者の健康を守るために、看護職員と介護職員が協力していきたい |
| 46 | **○早期退院に向けた医療機関との協働**<br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院時には本人の介護添書を医療機関に提供している。また、入院先に見舞いに行き、状態を確認して、病院内の地域医療連携室等と連絡を取り合いながら状況把握、早期退院への調整を行っている | | |
| 47 | **○重度化や終末期に向けた方針の共有**<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 病気の状態についてはその都度主治医や家族と話をして情報を共有している。重度化や終末期に向けての方針が共有できているのは一部の入居者のみである | ○ | 重度化や終末期での方針の共有が入居者全員についてできるようにしていきたい |
| 48 | **○重度化や終末期に向けたチームでの支援**<br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人や家族の意向を考慮して、重度化や終末期をどのように過ごすことができるのか主治医や家族と話したことを職員間で共有できるようにしている | ○ | 重度化や終末期にどのように関わっていくか事業所全体で検討していく必要がある |
| 49 | **○住み替え時の協働によるダメージの防止**<br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 別の施設に移り住む場合、関係者に本人の情報を多く伝えたり、面接に来て頂いて、本人が不安なく移り、安心して過ごせるように配慮を行っている | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | |
| **1．その人らしい暮らしの支援** | | | | |
| **（1）一人ひとりの尊重** | | | | |
| 50 | **○プライバシーの確保の徹底**<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉かけに対しては入居者を尊重するような言葉かけをするように心がけている。また、職員会議やミーティングなどでも個々の対応について話し合い、確認するようにしている | ○ | 職員が意識して入居者に対する言葉かけや接し方、個人情報の取り扱いについて気をつけるようにしていく |
| 51 | **○利用者の希望の表出や自己決定の支援**<br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 何事に対しても職員の押しつけにならず、入居者に聞いて決めてもらったり、意見を聞いて納得してもらえるように心がけている | | |
| 52 | **○日々のその人らしい暮らし**<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や気分、その人の生活リズムに合わせて無理のない対応をしている | | |
| **（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援** | | | | |
| 53 | **○身だしなみやおしゃれの支援**<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている | 本人や家族の意向を聞いている。本人のなじみの理美容院に家族が連れて行ったり、そうでない人は、職員が本人と相談しながら散髪している。服装や身だしなみについても本人と職員が一緒に考えて決めるように配慮している | | |
| 54 | **○食事を楽しむことのできる支援**<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員が献立を決めている。菜園で利用者と一緒に作った野菜を使ったりする。野菜の皮むき等下ごしらえを手伝ってくれたり、職員と一緒に準備や後片付けをしてくれている。職員は弁当を持ち、入居者の様子を見守りながら食事をしている | ○ | 食べる楽しみを感じることができるよう、入居者と一緒に献立を考えたり、作ったりできる機会を増やしていきたい |
| 55 | **○本人の嗜好の支援**<br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒やたばこを飲む機会は作っていない。本人の希望で朝食をパン食にしている人もいる | ○ | 入居者の好みを聞いておやつや飲み物等、嗜好品を楽しめるようにしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 56 | ○気持よい排泄の支援<br><br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄チエック表や尿意のサインを見て、声かけやトイレ誘導を行いなるべく失禁しないようにしている。失敗したときはさりげなく片付けて介助している。夜間のみポータブルトイレを使っている人もいる | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週に3回、ユニット毎に午後入浴している。入浴拒否がある人にはチームプレイでうまく入れるように声かけを工夫したり、曜日や時間にとらわれず入浴の機会を作っている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援<br><br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 睡眠リズムや体調を様子みて居室や居間のソファーで休んでもらっている | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 季節毎の行事を取り入れて職員と入居者が一緒に和やかに過ごしている。洗濯物を干したりたたんだり、食事の後片付け、調理の下ごしらえ、掃除などを手伝ってくれるので感謝の言葉かけをしている。菜園があり、一緒に畑仕事をしたり、毎日畑や花に水やりをしてくれる入居者もいる。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者がお金を持つ大切さは理解している。外出時に一緒に買い物に行き、自分でお金を払う機会を作っている。きちんと金銭管理のできる入居者は少なく、所持金は預かっている | ○ | 個別に買い物をした時などにお金を支払えるような機会をつくりたい |
| 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 体調や気分を考慮して、散歩やドライブ、買い物などに多く出かけるようにしている。皆外出は好きである。少人数ずつ車椅子利用の方も含めてなるべく多くの入居者が出かける機会を作っている | ○ | 外出する入居者が固定化しないようにして、一人一人が外出を楽しめるように取り組んでいきたい |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 不穏状態になりやすい入居者に対しては本人の思いを聴き、個別に出かけたりしている | ○ | 入居者全員、個別に行きたいところや馴染みの場所への外出支援ができるようにしていきたい |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 63 | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の訴えがあるときは電話を取り次いだり、手紙を出す準備を手伝ったりしている | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 訪問時には居室や居間のソファー、テラスで一緒に過ごしてもらっている。職員も交えて日頃の様子などを伝え一緒に話をしたりもする。面会時間は設けておらず、仕事帰りに会いに来られる方もいる | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 入居者の安全に配慮しながら、身体拘束はしないという姿勢で日々の介護に取り組んでいる | ○ | 身体拘束に関する勉強会をして職員すべてが認識していくようにする |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関に鍵をかけずに自由に出入りできるようにしている。不穏時に外に出ていこうとする入居者がいるが、職員が様子を察知して言葉をかけたり、一緒について行ったりしている | | |
| 67 | ○利用者の安全確認<br><br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 日中はホールに職員がいて様子を見守り、記録もホールで行う。夜間は時間毎に見回りをして安全確認をしている | ○ | 夕方、帰宅願望で徘徊の強くなる入居者もいるので所在の確認をしている |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理<br><br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 入居者の安全に配慮しながら保管、管理している | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み<br><br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故に関してはヒヤリハットや個々のケース記録にて報告する。ミーテイングで情報を共有して事故防止について検討している | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え<br><br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 応急手当や救急の訓練は行えていない。看護職員に教えてもらったりしている | ○ | 勉強会や実施訓練等で急変や事故発生時の対応を職員全員ができるようにする |
| 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災設備の点検は定期的に行えている。開設以来最初の防災訓練を平成20年11月に実施した。消防署の協力を得て避難誘導、消化器の使い方の訓練をした | ○ | 定期的に防災訓練を行うことで災害対策についての意識をもつようにする |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br><br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている | 転倒など入居者の起こりうるリスクを面会時に家族に話している。また、、リスクを防ぐために介護をする中で気をつけていることも伝えるようにしている | | |
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応<br><br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝バイタルチエックを行い日頃の状態を把握している。様子を観察しながら体調の異変がみられる場合には早期に受診を行っている。ケースについての記録を残している | ○ | 職員全員が入居者の体調の変化を見落とさないように注意する |
| 74 | ○服薬支援<br><br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者のフアイルに個々の薬の説明書を保管しており、職員が把握できる。服用時には本人に手渡し、あるいは介助して飲んだことを確認している | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応<br><br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 便秘にならないよう、食物繊維や野菜を多く摂るように献立を工夫している。十分な水分摂取にも努めている。また、排便表をつくり、状況を把握して看護職員の指示のもと対応している | ○ | 看護職員が中心となり、便秘予防に努めていく |
| 76 | ○口腔内の清潔保持<br><br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後声かけして口腔ケアを行っている。一人で十分できない場合には手伝っている。義歯もその都度外して洗い、就寝時には水につけて保管している | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | チエックシートに毎食食べた量を記入し、水分記録表で1日の水分摂取量を把握している。定期的にお茶の時間を設けて飲水の習慣をつけるようにしている。 | ○ | 職員が水分摂取の必要性を認識して、個々の十分な摂取に取り組んでいく。水分を摂りたがらない人もいるので対応に工夫している |
| 78 | ○感染症予防<br><br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | 感染症マニュアルを作成している。消毒や対応の仕方についてのマニュアルを職員の目につくところに貼り、徹底するようにしている | ○ | 年間を通して感染症を予防するため、職員が意識を持ち取り組んでいく |
| 79 | ○食材の管理<br><br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 食中毒予防のため職員や入居者の手洗いを励行している。食材もその都度新鮮なものを購入する。台所の水回りや調理器具、冷蔵庫、カウンター等の整理整頓、清潔を心がけている | ○ | 年間を通して消毒法、手洗い等食中毒予防に取り組んでいる |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br><br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 建物は木造作りの平屋で安定感がある。周囲には芝生が植えてあり、玄関前にはベンチやプランターを置いている。明るい雰囲気になるよう玄関には花を生けたりしている | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間は食堂を兼ねていて、日中はここで過ごすことが多い。季節毎の花を飾ったり、壁に飾り付けをしたり、写真を貼ったり、職員と入居者が一緒に行っている | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーや椅子など置いてあり、入居者がそれぞれ自由に使ってくつろいでいる。テラスで過ごす時もある | | |

| 項　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室にはベッドと整理たんすを設置している。布団類は全員持ち込みである。馴染みのものを持ってくる人は少ないが、目覚まし時計や壁時計、小物入れ、座椅子など使っている人もいる。ホームで撮った写真や手作りの小物も飾っている | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮<br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 職員が入居者に配慮しながらこまめに温度調節を行っている。また、居室やトイレには換気扇があるので活用している。入居者が一人で空調を調整する場合には適切な温度であるか、職員が確認するようにしている | | |
| （2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内はバリアフリーで安全である。廊下やトイレ、浴室には手すりがあり活用している。また、各自の身体状況を考慮して車椅子や歩行器を使用してもらっている。また、歩行が不安定な人も多く、移動時には転倒しないように見守りを行っている | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり<br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 入居者が混乱しないように、職員が傍につき言葉かけを多くして安心感を与えている。また、持ち物や衣類には名前を記入して自分の所持品がわかるようにしている。居室のドアには野菜や果物の表札と名前の表札をつけて混乱しないようにしている | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用<br>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 天気のよい日にはテラスでおやつや昼食を食べたり、外の景色を眺めて楽しんでいる。建物の周囲には芝生や菜園があり、散歩したり、職員と入居者が一緒に野菜を作っている | | |